



自民党

練馬区議会議員 第五十九代議長

関口かずお



- 常任委員会 区民生活委員会 委員
- 特別委員会 医療・高齢者等特別委員会 委員長
- 各種委員会 民生委員推薦会

ご相談は… **関口かずお 事務所**
 〒176-0021 練馬区貫井 3-53-8
 Tel / Fax : 3998-1752 HP : <http://www.k-sekiguchi.jp/>

東京スカイツリーの見方

東京スカイツリーが開業した。風景の中に、その姿を見つけたら、よく、こんな高いものを建てられるものだ…とおもっ。

私にとって、なじみの深い「塔」といえば、やはり薬師寺さんの塔、であるが、そういう寺院の塔の構造が、現代のスカイツリーの構造に活かされていると聞く。

いにしえから変わらず人というものは、その時代、時代に生きる人々の技術の粋を集め、決しての届かない大きな空にそこが、そして近づこうとしてきたのだらう。

開業の日の新聞に、「塔博士」と呼ばれ、数々の電波塔の設計に携った建築家・内藤多沖氏に師事し、東京タワーの設計に関わった早稲田大学名誉教授、田中氏の記事があった。

「謙虚な姿勢で臨め」「無理はするな」これが、「塔博士」内藤氏の口癖だったという。構造力学の基本に素直に従えば、おのずと安全性が高く、経済的な塔ができる、というのが、塔のことを知り尽くした内藤氏の遺訓なのだろう。

「すこいタワーができた」素直にそう思う一方、田中さんは、建物の高さが技術力や経済力を示す時代が、これで段落したとも感じている。

「自然に挑戦するかのごとく高さを追い求めれば必ず無理が来る。」スカイツリーの建設中に起きた昨年の東日本大震災を見て、内藤博士の哲学を改めて思い起こした。

平成24年5月22日 読売新聞朝刊より

スカイツリーは、建設中の震災にも十分に耐えて完成したが、強風によりエレベーターを停止するなど、予想もしなかったことも起こっているようだ。

技術は進歩し、スカイツリーのような建築物も造れる日本だが、昨年の東日本大震災では、人の造ってきた街や、建物や、道や、港や、そういったものが、自然の力の前には、あまりにももろく無力であった。

人の技術と力の象徴がスカイツリーであるとしても、それが人の造ったものである限り、絶対であったり、万能であったりすることはなく、ということをおぼえてはならないのだ。

スカイツリーは練馬区役所の庁舎からも見える。23区内なら、おそらく、どこか必ず見える場所があるだろうとおもふ。それは、スカイツリーの高さのなせる業であり、東京はまたひとつ、すばらしい「名所」を手に入れた、とも、おもっ。

しかし、だからこそ、スカイツリーを見るときには、「塔博士」内藤氏の言葉をおもいたい。

スカイツリーを訪れて、買い物や見物を楽しむもよし、遠景にスカイツリーを見て、感動するもよし。

だが、スカイツリーにはもうひとつ、少し違った見方、がある。

どこからでも見えるスカイツリーだからこそ、自然の力の大きさをおもい、人間の小ささをおもいながら、少しだけ、戒められる。そんな見方も、たまにはどうだろう。

スカイツリーが、いつまでもその雄姿を見せ続けること、薬師寺さんの塔のように、時代を超えて、いつまでも人の心に残ること。

それこそが、これからの日本が安寧であることの証、になるのかも、しれない。

子どものための、子どもの立場に立った「真の子育て支援」を目指して!

ご存知ですか?

練馬区の保育園入所児童数 約**8,256**人(平成22年度、0~5歳児)
 児童一人当たりの公費負担額 約**205**万円(平成22年度、年額)です。
 つまり、年間約**175**億円を保育所の運営に投入していることになります。

特に…
 0歳児一人当たりの保育経費は
 月額約**47**万円(年額約**565**万円)で
 区立保育園に
 在籍する**0**歳児**667**人分だけでも
 年間約**38**億円(平成22年度)の公費負担となっています。

最近、待機児童の問題がクローズアップされ、保育所増設の機運が盛り上がっていますが、保育園の設置や運営には、当然経費がかかります。区立保育園の場合、運営費の大部分は、税金でまかなわれています。もちろん、家庭の事情や経済的な理由から、保育園を利用せざるを得ない家庭もあります。そこで…

区から、年齢や家庭状況にあわせた 育児助成を実施することを提案します!

例えば
 平均的な育児費(ミルクやオムツなど)は月額約**2**万円
30代女性の平均月収は約**25**万円、この**7**割で月額約**18**万円と計算し
0歳児一人当たり月額約**20**万円の公費助成を実施します

この制度を利用して
 現在保育園を利用している0歳児児童約667人のうち約半数の300人が家庭での子育てに切り替えたとすると…
現在のまま: 667人 × 565万円 = 約37億6千万円(年額)
助成を実施: 367人 × 565万円 + 300人 × 240万円 = 約27億9千万円(年額)

このように、約**10**億円の経費を圧縮し、他の政策に投入できるだけでなく、自らの手で子育てできる家庭を増やすことができます。

幼児の肌を離すな! 児童の手を離すな! 少年の心を離すな!

高齢者が、元気に安心して生活できる「ずっと住み続けたいまち」を目指して!!



練馬区では…平成24年3月末時点で
 居宅サービス利用者数 **16,957**人
 デイサービス利用者数 **6,594**人
 特別養護老人ホーム利用者数 **1,769**人
 となっています。

必要になったら、介護サービスを積極的に活用して 介護する側もされる側も明るく、暮らしやすい毎日!

いつまでも元気! という意識こそ最高の介護予防です!

寝るな! **転ぶな!** **風邪引くな!**

「サンライフ練馬」(貫井 1-36-18)が 全面改修工事で、さらに便利になります!

- ・建物全体が耐震化され、より安全・安心して利用できるようになります
- ・トレーニングルームが拡大、より多くの方が利用できるようになります

リニューアルオープンは、平成 25 年 4 月ごろを予定しています